

LETTER FROM COPENHAGEN コペンハーゲン通信 PART VI 3



「ダンコート」による非接触型IC決済



ダンスケ銀行によるモバイルペイの広告

デンマーク王国 DATA

人口578万人（≒兵庫県）、面積4.3万平方キロ（≒九州）、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

古澤 芽衣

在デンマーク日本大使館二等書記官
（経済同友会事務局より出向中）



デンマークで進むキャッシュレス化

デンマークは、EUに加盟していますがユーロを導入しておらず、独自のデンマーク・クローネ（DKK）を使用しています。EUや北欧といっても、お隣の国スウェーデンも独自のスウェーデン・クローナを使っていますし、ノルウェーもノルウェー・クローネを使っています。同じ北欧で、同じクローネ（クローナ）という通貨なのに各国違う紙幣とコイン、レートなのです。ちなみにフィンランドはユーロです。デンマークはEUなのにユーロが使えないし、北欧に旅行に行っても通貨が異なるから何かと不便だ！と思ってしまうがちですが、デンマークをはじめ、北欧の国ではカード決済が主流になっていて、ほとんどの場所で現金を持っていなくても問題なく過ごすことができます。デンマークに住んでいる私も、財布の中に現金を入れて持ち歩くことはほとんどありません。

デンマーク中央銀行の調べによると、デンマーク人で現金を持ち歩いている人は国民の約23%で（EU諸国の平均は約79%）、EUの中でも特にキャッシュレス化が進んでいる国です。年齢別に見てみると、15歳から29歳では約9%、70歳から79歳では約40%という結果でした。高齢者も若年層に比べると現金主義の人たちが多いようですが、高齢者であっても半数以上は現金を持ち歩いていないのです。持ち歩いている金額を見ると、半数以上が100デンマーク・クローネ（約1,800円）以下という非常に少額にとどまっています。

デンマークでは、「ダンコート」と呼ばれるデビットカード機能付きキャッシュカードが主流で、支払い時に銀行口座から即座に引き落とされます。また、2014年からはダン

コートに非接触型IC決済の取り扱いが開始され、一定額以下の支払いにおいては、暗証番号なしでカードリーダーにカードをかざすだけでデビットカード決済が可能となりました。個人同士の送金にはモバイルペイが主流になっており、2013年からキャッシュカードなしでスマートフォンから相手の口座へ支払いができるようになりました。飲み会などでの精算もモバイルペイで立て替え者に即時に送金ができるで大変便利です。

今年デンマークでは、午後10時から翌朝6時までの間は現金支払いを商業施設は拒否できるといった法案が可決されました（24時間営業の薬局は適用外）。また、これはどちらかというとマネーロンダリング防止の観点ですが、5万デンマーク・クローネ（約90万円）以上の現金支払いは法律で制限されています。国レベルでも、キャッシュレス化が年々進んでいるのが現状です。

しかし、デンマークはスウェーデンのように現金廃止を目指しているわけではなく、デビットカードやモバイルペイなどの現金以上に利便性のある支払い方法を国民が選択できる環境を積極的に作っているのです。銀行においても、現金の取り扱いが減ったことで国内の支店数を減らし、人件費をはじめとした経費削減から収益を増やすことができました。多面において、利便性を考慮し合理化を進め、スマートな社会を作ろうとするデンマーク人の行動力には毎度驚かされますが、こういった行動は日本が学ぶべき部分だと常に思います。今後の国全体の成長のため、国レベルだけで一人歩きするのではなく、個人レベル、ビジネスレベルで同じ方向を向くことができることは大変素晴らしいことだと、あらためて感じました。